
飛行機雲

夕風 渚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飛行機雲

【Nコード】

N1508P

【作者名】

夕風 渚

【あらすじ】

飛行機雲を――――もう見れない

その理由とは――――

もう、飛行機雲を見れない。

将来パイロットになりたかった。

空が大好きだった。

でも、もう飛行機雲と飛行機が見れない。

今でも、思い出してしまう。

僕の好きな人は、もう日本にはいません。

親の方針で、海外へと行ってしまいました。

空港の人ごみに消えていった好きな人を——今でも思い出す。

初めて会ったのは、小学校の頃だったか。

男女間の友情って、あるかも——って思えるほど仲良くなって。

中学校最後の年。

気付けば好きになっていた。

気付いているのか、気付いていないのか。

好きな人はいつも僕に接してきて。

告白しなかったら、その時と変わらなかった？

でも。

伝えなかった。

自分の気持ち。

自分勝手な言い方だけど。

「ハッキリしてよ——」

曖昧な言葉に想いは散って。

部活が終わって、学校に行く理由もなくなって。
引きこもってしまった。

いつの間にか、僕の心のほとんどが好きな人に埋め尽くされて。
もう通じないと決めつけて。

自暴自棄になって、カッターナイフを握った。

精神的にボロボロになって、初めて知った。

好きな人も、ボロボロだった事に。

役に立ちたくても、立てるはずもなく。

一人で空回りして———。

そして、決めた。

諦めると。

嘘。

嘘。嘘。嘘。

みんなに見抜かれていた。

みんなが気付くほど、僕は好いていた。

なのに、諦めると決めつけた。

嘘。

やっぱり、好きなんだ。

心の過半数を占める想いは、そう簡単に消えず。

でも、自分に嘘をついただけ、本音は口から出ず。
二度と告げられることがなかった想い。

春休み。

好きな人が旅立つことになって。

自分と呼んでくれたのは、最後の優しさ？

あんなにも、避けていたのにね。

自分に嘘をついただけ、本音は口から出ず。

最後まで、もう一度——好き。と、単語二つは口から出なかった。
無邪気な笑顔で手を振って、人ごみに消えていくのを止められず。

好きな人が乗った飛行機が離陸して。

本当に、手が届くことが無くなった瞬間。

初めて、涙が零れた。

飛行機雲を見るたび、最後を思い出す。

飛行機を見るたび、出なかった想いを思い出す。

でも、思い出の中だけでも出会いたい。

初めて、下の名前で読んでみる。

でも、伝わらないんだよね————保乃楓。

今日も僕は、飛行機雲を探している。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1508p/>

飛行機雲

2011年1月11日11時28分発行